

平成26年3月25日

豊川市議会議長 今泉 淳乙 様

産業建設委員長 富田 潤

産業建設委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務についての調査結果を報告いたします。

1 調査項目

(1) B-1後の魅力あるまちづくりについて

平成25年11月にB-1グランプリ in 豊川を実施することから、一時的なものにするのではなく、本市の観光行政に継続的に活かしていくことが重要と考え、調査を行いました。

2 調査内容

別紙〈調査経過〉のとおり、本市の現状把握のための勉強会を実施し、先進都市の視察の後、視察内容を踏まえて委員間で意見交換を行い、さらに調査をするため、再度、先進都市の視察を行いました。

3 調査結果

(1) B級グルメの聖地(まち)久留米の観光行政について(福岡県久留米市)

①本市の状況

- ・いなり寿司でB-1グランプリに出展。平成25年11月に豊川市にて全国大会を開催。

②先進都市の状況

- ・B-1グランプリ全国大会開催後に愛Bリーグを脱退。現在はB級グルメの聖地(街)として様々なグルメを取り上げてまちづくりを展開している。
- ・B-1グランプリ開催の予算は3,200万円。国が900万円、市が400万円を負担した。

- ・「とんこつラーメン発祥の地」、「焼き鳥日本一宣言」、「筑後うどんて日本三大うどん」で久留米三大B級グルメとしてPRしている。

③総評

- ・活動は民間主導であり、行政はそのお手伝いとどめ、さらにはそのお手伝いやアドバイスを真摯にやりとりできる関係の構築が大切。
- ・久留米市は豊川市と同様に観光地が少なく、ともすれば通り過ぎて行くまちになりかねないので、いろいろな資源を活かしていかなければいけない。
- ・別資源の開発やいなり寿司とのコラボ、イベントのマンネリ化打破とインパクトが持てる取り組みが必要。

(2) B-1 グルメ開催地のその後の観光行政について（兵庫県姫路市）

①本市の現状

- ・いなり寿司でB-1 グランプリに出展。平成25年11月に豊川市にて全国大会を開催。

②先進都市の状況

- ・関連予算は一般会計1億6,400万円。特別会計2億8,200万円。補助金は兵庫県から200万円、姫路市から4,200万円。
- ・全国大会開催にあたっては安心・安全を心がけた。
- ・B-1を一過性のものにしないうちに継続して「姫路おでん」で展開を考えている。
- ・マスコミの露出、実行委員会の戦略（のぼり、田園アート、鉄道車両への広告等）で開催機運が盛り上がった。そのため、多くのボランティアの参加があった。
- ・B-1開催により、姫路おでんをはじめとする観光施設に合わせて「食」を新たな観光資源として組み合わせる展開していく。
- ・今後「姫路食博」（予算200万円）、と「食のまち姫路推進事業」（予算500万円）を実施する予定。
- ・B-1後の観光関連予算は平成24年度300万円、平成25年度700万円。しかし、B-1大会と結びつけた施策は特筆すべきものはない。
- ・B-1後の観光で気をつけている点は、B-1開催地として姫路の食

のPR、「姫路食博（民間団体開催）」の継続支援、ボランティアで協力していただいた団体等に定期的に観光情報の発信を行っている。

③総評

- ・イベントは単発ではなく、別の要素と連携するなどした仕掛けが必要。
- ・来客者を増やすには新規よりもリピーターをいかに増やすかが重要。
- ・姫路においても継続的に食のイベントを行っていても、なかなか決定的な施策がなく、苦労しているように感じた。

(3) フードバレー構想について（静岡県富士宮市）

①本市の現状

- ・現在本市で直接食を題材にした事業は行っておらず。観光協会が中心にイベントを行っている。

②先進都市の状況

- ・フードバレー構想にはこれまで1億1,700万円の予算を投入。
- ・富士宮やきそば学会を市民が立ち上げ、第1回B-1グランプリで優勝。その富士宮市で大会を開催し、25万人の来客があった。
- ・地域への経済波及効果は9年間で439億円。
- ・富士宮やきそばに見るまちおこしの秘訣は下記のとおり。

一貫して「まちおこし」を目的にしてきた
アイデアに留まらず実行してきた
行政・業界からの金銭的な支援に頼らなかった（自由な発想で）
閉鎖的にならず全国の同士と手を結んだ
市の施策と一致していた（フードバレー構想）

- ・B-1を契機にフードバレー構想の市民への認知度は上がった。

- ・シティプロモーションとしても成功し観光客も増加したが、近年は減少傾向にある。

- ・次のブランド化として「にじます」を推進している。

③ 総評

- ・B-1グランプリはツールということを改めて認識した。
- ・B-1本家の富士宮市でもやきそば以外の名物を押し出そうとしているが、なかなか軌道に乗っておらず、次の名物を育てることが課題であった。

- ・ B-1 グランプリの効果で一時観光客は増加したが、それにも賞味期限がある。

(4) B-1 グルメ開催地のその後の観光行政について (神奈川県厚木市)

①本市の現状

- ・ いなり寿司で B-1 グランプリに出展。平成 25 年 11 月に豊川市にて全国大会を開催。

②先進都市の状況

- ・ B-1 グランプリの予算は 6,876 万円。経済波及効果は 36 億円、開催時から 1 年で約 78 億円。
- ・ かながわフードバトル in あつぎを開催して、継続して「食」をテーマにイベントを開催している。
- ・ イベントは B-1 のシロコロホルモンだけでなく、スイーツやゆるキャラなどを融合している。
- ・ B-1 グランプリによって「厚木」の知名度が上がり、まちのシロコロホルモン屋さんに行列ができていたが、今は一時に比べたら行列が減った。
- ・ B-1 による観光客の増加は一過性のもので、その後の恒常的な観光客増につながったかは明確に判断できない。
- ・ 現在、恒常的な観光振興を図るためには B 級グルメに頼るのではなく、自然を活かしたアウトドア系アクティビティによる誘客促進を図るべきとの戦略に基づき予算計上を行っている。
- ・ 厚木市単体での観光客誘致には限界があることから、周辺自治体との広域連携による観光振興についても取り組みを開始したところ。

③総評

- ・ 厚木市も B-1 効果一過性と捉えており、シロコロホルモンだけでなく、様々な食やゆるキャラなどで新たな道を模索していた。
- ・ B-1 グランプリ以降に「観光振興計画」を策定、具体的なアクションプランを定め、地域の活性化を図っている。
- ・ 変化をつけたグルメイベントを継続的に行っているが、B-1 グランプリが起爆剤になって観光客が増加したかは疑問。

4 産業建設委員会からの提言

(1) B-1 グランプリの後の観光戦略について

- ・先進自治体を視察して、B-1 グランプリ効果には時間が限られていると明らかだと思しますので、観光基本計画策定については、B-1 の熱気と成功体験が冷めないうちに、できるかぎり前倒し（平成27年3月）すると良いと考えます。
- ・先進自治体を視察して、B-1 に関連して観光客増加を目指していくことは一過性であるために限界があると感じます。しかし、B-1 グランプリでできたボランティアのつながりやおもてなしの心を継続して次の展開につなげていくことは非常に効果があり意義のあることであるので、今後積極的に行うと良いと考えます。
- ・先行している自治体の例から、B-1 以外の他のグルメでのまちづくりはなかなか難しいと考えます。豊川市は現状で「いなり寿司」のみなので、歴史やゆるキャラ、スイーツなどの別資源と観光資源を組み合わせた施策を実行していくと良いと考えます。
- ・イベント時には、次回以降につながる仕掛けをつくり、連続性を持たせて豊川市の魅力に接してもらう機会を増やすことを考えると良いと感じます。
- ・大イベントの運営ノウハウを市役所内外にできる限り継承していくことが大切だと考えます。
- ・B-1 グランプリの広告効果を見るに、広告宣伝のノウハウを今後のシティセールスに活かすと良いと考えます。
- ・イベント時には、様々なツールを使ってできる限りリアルタイムに情報公開をしていくと良いと考えます。
- ・プランディングに関して、看板や、まちなみを豊川市に入った瞬間から「ここ〇〇のまち」だとわかるような施策を考えるとよいと思います。
- ・豊川市は周辺自治体の海、山、川など食材と自然豊かな条件にあるので、広域の観光振興について積極的に取り組むと良いと考えます。

別紙

<調査経過>

- ・平成25年6月5日（水） 勉強会の実施
主体的な所管事務調査について
行政視察について
- ・平成25年6月10日（月） 視察先等の決定
- ・平成25年7月16日（火） 視察の実施
福岡県久留米市「B級グルメの聖地（まち）久留米の観光行政について」
- ・平成25年7月18日（木） 視察の実施
兵庫県姫路市 「B-1グルメ開催地のその後の観光行政について」
- ・平成25年10月8日（火） 勉強会の実施
行政視察について
- ・平成26年1月16日（木） 視察の実施
静岡県富士宮市「フードバレー構想について」
- ・平成26年1月17日（金） 視察の実施
神奈川県厚木市「B-1グランプリ開催地のその後の観光行政について」